



第3四半期決算説明会

2023年2月7日

■ 本日の出席者



伊藤 毅

代表取締役社長
兼 CEO



越路 和朗

CFO
兼 チーフ リスク オフィサー



ピーター・サルスティグ

チーフ メディカル オフィサー

重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

基本理念とWORLD VISION

基本理念

天機に参与する

自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するという
ことを意味しています。*

WORLD VISION

Happiness with Vision

世界中の一人ひとりが、Best Vision Experience を通じて
それぞれの最も幸福な人生を実現する世界を創り出したい。

* 中国の古典「中庸」の一節をSantenが独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。

■ Agenda

1. 第3四半期実績と通期予想
2. パイプラインの状況
3. 再成長に向けたアジェンダ

第3四半期決算サマリー

日本の安定的利益創出、EMEA、アジアの好調継続
一方で、中国の市場回復の鈍化継続、米州損失拡大、研究開発費の増加等によりコアベース減益
収益性改善のための構造改革や費用削減施策は着実に進展しているがQ3時点では効果は限定的

■ 2022年度第3四半期実績

- 売上収益：前年同期比 +2.0%（1,998億円）
- コア営業利益：前年同期比 -21.4%（272億円）

■ 2022年度通期予想について

- 売上収益・コア営業利益：
 - 中国のQ3実績、Q4見込、及び、為替推移を踏まえ、2,720億円・410億円に下方修正（Q2予想：2,800億円、455億円）
- 営業利益（IFRS）：
 - 米州構造改革費用等をノンコア販管費に追加で織り込み、当期利益-155億円（Q2予想：-55億円）

中国の業績回復遅延、研究開発費増加等に伴いコアベース減益 コスト削減施策の効果はQ3時点では金額、範囲共に限定的

(単位：億円)	2021年度 第3四半期		2022年度 第3四半期		
	実績	対売上 収益比率	実績	対売上 収益比率	対前年同期 増減率
売上収益	1,958	-	1,998	-	+2.0%
売上原価	827	42%	854	43%	+3.3%
売上総利益	1,131	58%	1,143	57%	+1.1%
販売費及び一般管理費	597	31%	655	33%	+9.6%
研究開発費	188	10%	217	11%	+15.3%
コア営業利益	346	18%	272	14%	-21.4%
ノンコア販管費	6	0%	-	-	-100.0%
製品に係る無形資産償却費	73	4%	72	4%	-0.4%
その他の収益	3	0%	5	0%	+64.2%
その他の費用	7	0%	306	15%	-
営業利益	264	13%	-101	-	-
金融収益	12	1%	10	0%	-17.9%
金融費用	7	0%	7	0%	-3.4%
持分法による投資損失	12	1%	17	1%	+46.0%
税引前四半期利益	257	13%	-116	-	-
法人所得税費用	64	3%	45	2%	-29.5%
(税負担率)	24.8%	-	-	-	-
四半期利益	193	10%	-161	-	-
コア四半期利益	259	13%	212	11%	-18.2%

売上総利益

前年同期比 +1.1%

- 売上収益：為替のプラス影響（+79億円）もあり前年同期水準を維持。中国のQ3/QT D円建て売上はQ2/QT D対比ほぼ横ばい
- 原価率：日本薬価引き下げや製品/地域構成・一過性要因等により対前年で悪化。Q3/QT Dでは原価率41.7%
- 粗利益における為替影響+60億円

営業利益（コアベース）

前年同期比 -21.4%

- パイプラインの進捗による研究開発費の増加
- 海外を中心とした人件費等販管費の増加、及び研究開発費の増加（うち為替影響計+65億円）

営業利益（IFRS）

- Eyevanceの減損損失（300億円）を主要因とし、-101億円

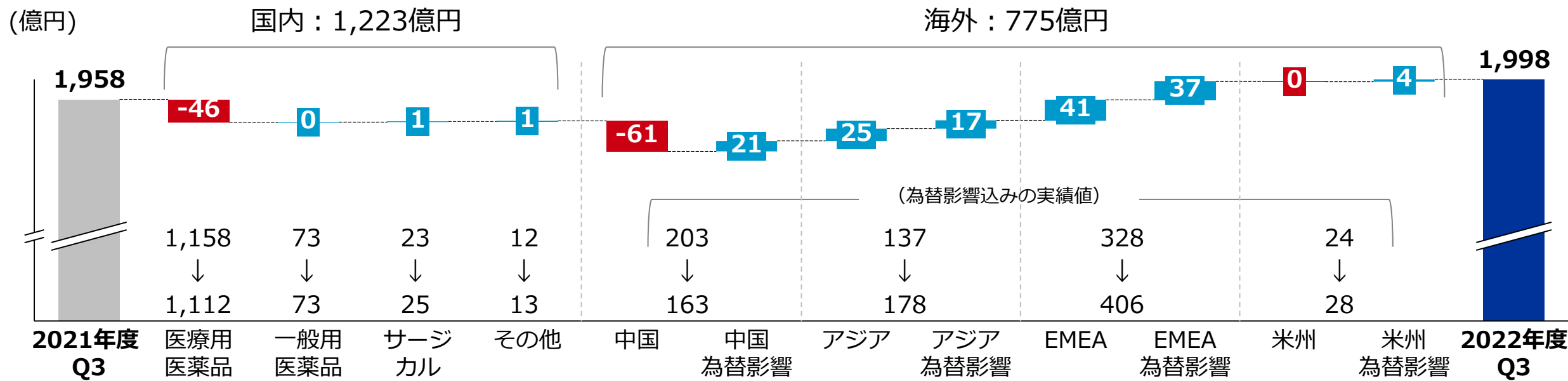
四半期利益（IFRS）

- 減損等の一過性の要因を除外した税率は22.9%

中国のコロナ禍からの回復遅延を他地域で吸収

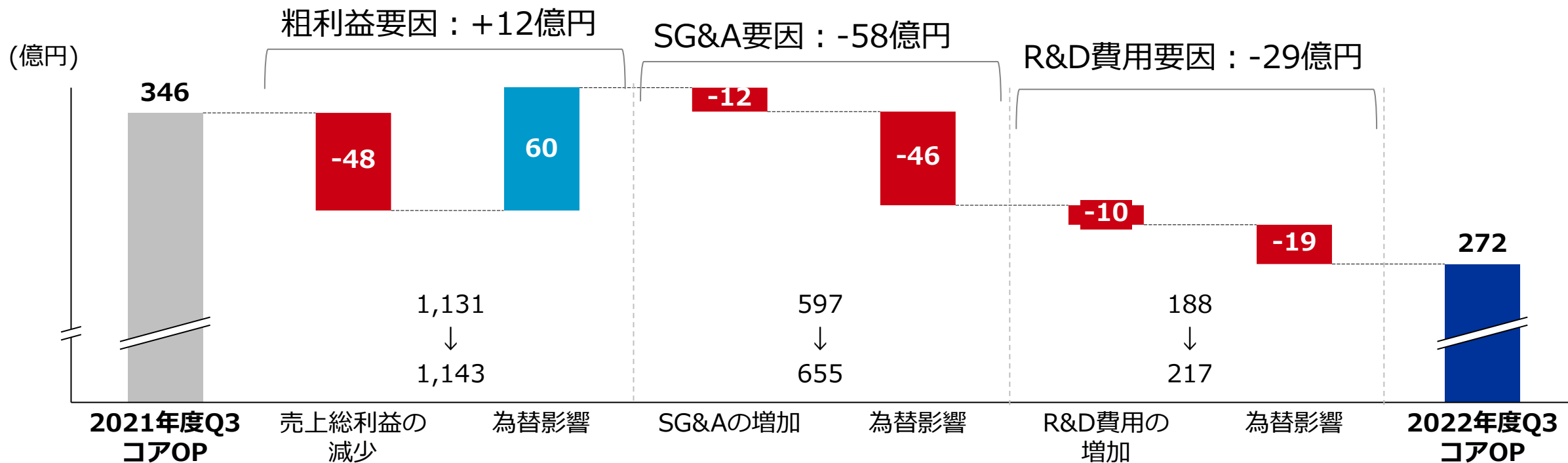
	2021年度 第3四半期実績	2022年度 第3四半期実績
USD (円)	111.24	136.22
EUR (円)	130.80	140.43
CNY (円)	17.28	19.86

USD (円)	111.24	136.22
EUR (円)	130.80	140.43
CNY (円)	17.28	19.86



日本	対前期 -3.4%：薬価改定の影響を主力製品でカバーし、引き続き堅調に推移
中国	対前期 -19.8%（為替影響除外 -30.1%）：COVID-19再拡大により市場が大きく縮小。来期は回復を見込む。
アジア	対前期 +30.0%（為替影響除外 +18.0%）：主要国で緑内障・ドライアイを中心に堅調に推移
EMEA	対前期 +23.6%（為替影響除外 +12.5%）：緑内障主力品目を中心に伸長し、期初想定より上振れで推移
米州	対前期 +16.7%（為替影響除外 -1.7%）：為替影響で前年同程度の売上水準維持も、患者貢献や収益化は課題

米州損失増加、中国市場回復の鈍さの継続、及び、 開発進展に伴う研究開発費増加等により、コア営業利益減益



粗利益要因 売上収益の為替プラス影響も含めて横ばい。地域/製品構成の変化等により原価率は上期比で低下傾向。コア営業利益影響は対前期比+12億円

SG&A要因 為替影響を含む海外を中心とした増加影響が大きく、コア営業利益影響は対前期-58億円

R&D費用要因 パイプラインの開発進展による費用増加に加え、60%強を占める外貨建費用が円安の影響を受ける。コア営業利益影響は対前期比-29億円

2022年度連結業績予想（2/7修正）

コア：中国におけるQ3、Q4の状況を考慮し利益下方修正 コア下：ノンコア販管費に構造改革費用追加を見込む

	FY2021 実績	修正予想為替 (2/7)	前回予想為替 (11/8)
USD（円）	112.57	140.00	140.00
EUR（円）	130.75	140.00	140.00
CNY（円）	17.55	20.00	20.00

（単位：億円）

	2021年度		2022年度（2/7開示）							2022年度（11/8開示）			
	実績	対売上 収益比率	上期 実績	対売上 収益比率	下期 予想	対売上 収益比率	通期予想	対売上 収益比率	対前期 増減率	下期 予想	対売上 収益比率	通期予想	対売上 収益比率
売上収益	2,663	-	1,289	-	1,431	-	1,272	-	+2.2%	1,511	-	2,800	-
売上原価	1,097	41%	559	43%	551	39%	1,110	41%	+1.2%	561	37%	1,120	40%
売上総利益	1,566	59%	730	57%	880	61%	1,610	59%	+2.8%	950	63%	1,680	60%
販売費及び一般管理費	839	31%	423	33%	482	34%	905	33%	+7.9%	492	33%	915	33%
研究開発費	264	10%	143	11%	152	11%	295	11%	+11.8%	167	11%	310	11%
コア営業利益	463	17%	165	13%	245	17%	410	15%	-11.5%	290	19%	455	16%
ノンコア販管費	6	0%	-	-	75	5%	75	3%	-	15	1%	15	1%
製品に係る無形資産償却費	97	4%	52	4%	42	3%	93	3%	-4.1%	42	3%	93	3%
その他の収益	10	0%	3	0%	4	0%	7	0%	-37.7%	4	0%	7	0%
その他の費用	11	0%	306	24%	8	1%	313	12%	-	8	0%	313	11%
営業利益	359	13%	-190	-	125	9%	-65	-	-	230	15%	40	1%
金融収益	25	1%	12	1%	1	0%	13	0%	-48.9%	5	0%	17	1%
金融費用	12	0%	3	0%	7	1%	10	0%	-17.3%	4	0%	7	0%
持分法による投資損失	16	1%	11	1%	12	1%	23	1%	+43.4%	9	1%	20	1%
税引前当期利益	356	13%	-191	-	106	7%	-85	-	-	221	15%	30	1%
法人所得税費用	84	3%	29	2%	41	3%	70	3%	-16.9%	56	4%	85	3%
（税負担率）	23.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
当期利益	272	10%	-220	-	65	5%	-155	-	-	165	11%	-55	-
ROE	8.4%						-					-	
コア当期利益	352	13%	125	10%	183	13%	308	11%	-12.5%	216	14%	341	12%

1 中国を中心とした足もとの進捗、および直近の為替推移を保守的に見積り減額（為替変更なし）

2 下期の原価低減効果反映

3 構造改革費用等の追加

4 Eyevance減損に伴う下期償却費用減少

5 Eyevance減損（300億円）

■ Agenda

1. 第3四半期実績と通期予想
2. **パイプラインの状況**
3. 再成長に向けたアジェンダ

新規作用機序を持つ緑内障治療薬やジクアスLXの上市など 新製品候補および製品改良/地域拡大とともに進捗

中長期成長を牽引する 新製品候補

STN1014000
Rocklatan®/Roclanda®

緑内障

欧州（ドイツ）で、**上市**
アジア（タイ）で、**承認取得**

STN1013900
Rhopressa®/Rhokiinsa®

緑内障

アジア（タイ）で、**承認取得**

STN1012600
Sepetaprost

緑内障

欧州でのP2（探索的試験）で**LPO***1

STN1013600
ウルソデオキシコール酸

老視

米国でのP2a試験で**FPI***2

STN1013400
AFDX0250BS

近視

日本で**P2a試験準備を開始**

STN1014100
オロダテロール塩酸塩

ドライアイ

日本でのP1/2a試験で**FPI**

既存製品の ブランド価値最大化 製品改良 /地域拡大

STN1008903
ジクアスLX

ドライアイ

日本で、**上市**
アジアで、**申請準備を開始**

STN2000100
プリザーフロ マイクロシャント

緑内障

アジア（マレーシア）で、**上市**

*1 LPO; Last Patient Out. *2 FPI; First Patient In.

■ Agenda

1. 第3四半期実績と通期予想
2. パイプラインの状況
- 3. 再成長に向けたアジェンダ**

「収益性改善」の進捗と「成長の柱」の方向性の報告



構造改革を着実に実行することで
足元の業績を回復させる

- 投資見直し
- コスト最適化
- 生産性向上

3つの視点で成長機会
を評価し、再成長の道筋をつける

- アンメットニーズの大きさ
- 世の中のトレンド
- Santenとしての強み

成果に直結するKPIを設定し
モニタリングを徹底するとともに、
戦略の実現に最適な組織体制を
構築する

新体制で構造改革を推進中

2023年度コア営業利益ベース60～80億円規模の改善を着実に実行するために構造改革を推進中



投資見直し

過去および今後の大型投資案件について
すべて洗い直し、戦略的意義や費用対効果に
合致しない案件は見直す



- ・ 米州事業を含む新規事業を
ゼロベースで再検証
- ・ 大型投資案件（ERP/蘇州新工場）の
タイミング見直し



コスト最適化

予算を厳格に見直すとともに、
ベンダー管理・需要管理を徹底して
直接材・間接材の調達を最適化していく



- ・ 全社最適に基づいた
予算ガバナンス/費用管理の強化
（下期費用執行・2023年度予算）



生産性向上

全社的にあらゆる観点から業務を見直し、
組織の効率化を図る



- ・ 全社組織の現状に則した最適化を図る

米州における医薬品販売事業を最大限合理化。 2023年度コア営業利益改善に大きく貢献



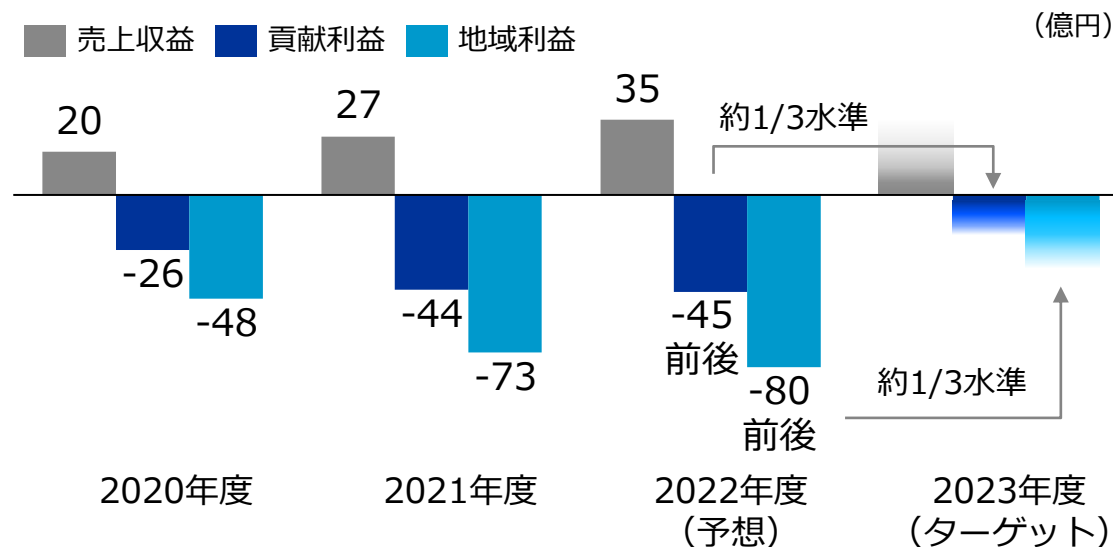
決定の背景

有望な開発パイプラインに投資し持続的な患者貢献を実現するために、短期的には収益改善が急務

最大限
合理化

今後の対応

- ・ 製品のライセンスアウト/売却の検討
- ・ 合理化により貢献損失/地域損失は、2022年度予想比約3分の1の水準を目指す
- ・ グローバル研究開発・医療機器製造は継続



*Glaukos社との開発販売提携を通じたSTN2000100 (DE-128) 事業は継続

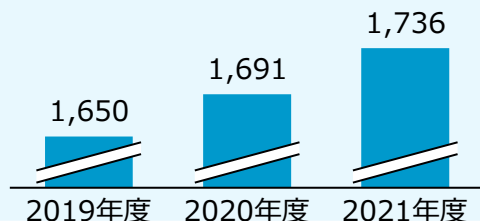
各事業地域で成長を実現 海外は生産性向上が次の課題

地域別売上収益（億円）*2

貢献利益率

1人当たり売上高（億円/人）*3

日本
市場成長 **-0.3%***1



CAGR
2.6%

2021年度
38.1%



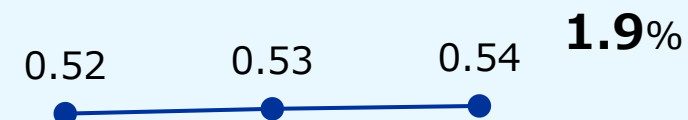
CAGR
4.4%

中国
市場成長 **5.7%***1



4.2%

42.5%



1.9%

アジア
市場成長 **5.2%***1



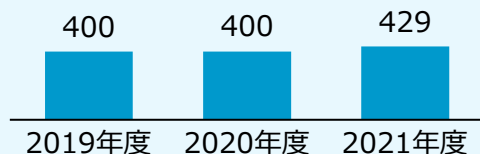
6.9%

41.7%



6.0%

EMEA
市場成長 **1.3%***1



3.5%

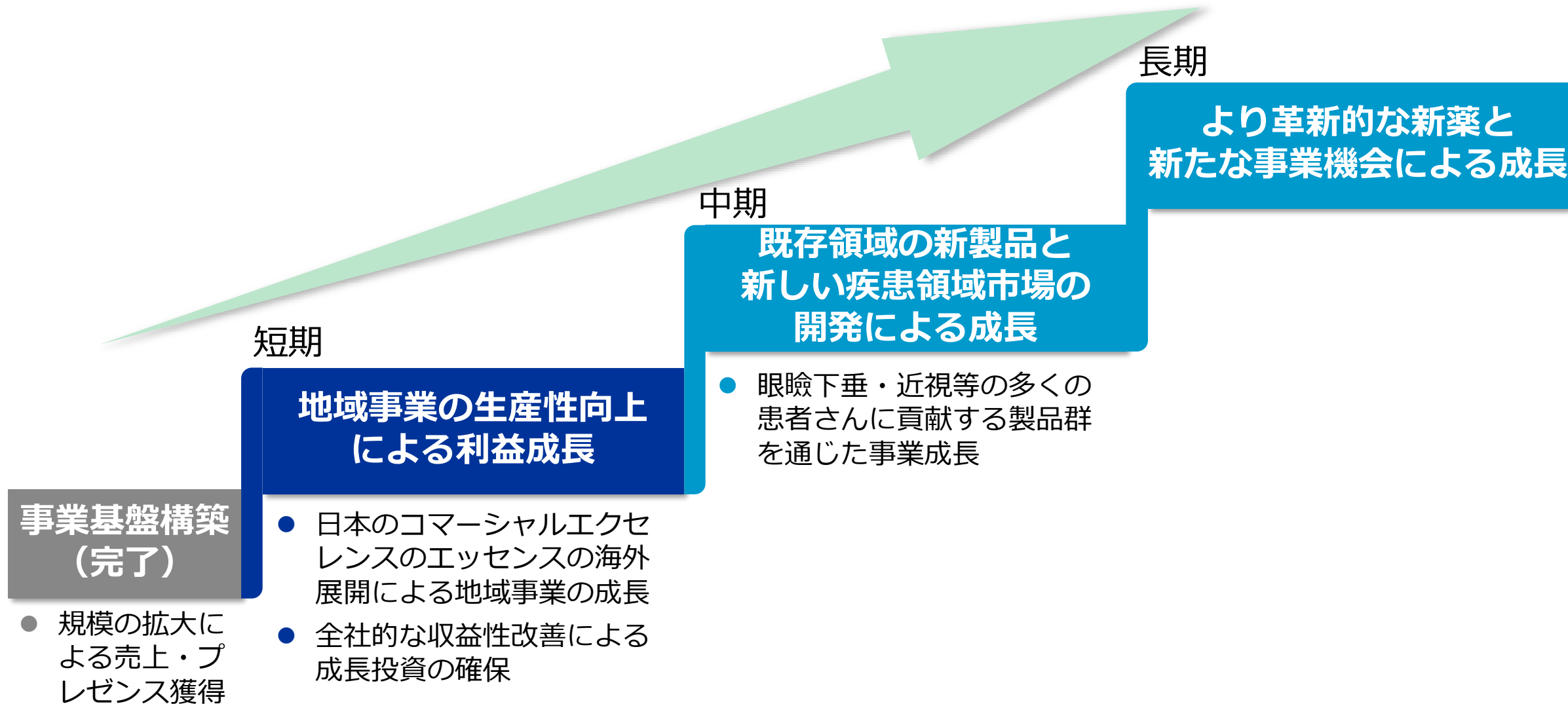
33.4%



-1.6%

*1 Copyright © 2023 IQVIA. JPM 2019.4-2022.3、およびIQVIA MIDAS 2019.1Q-2021.4Q（S1Pを除く）を基に参天分析 無断転載禁止
*2 為替影響除き（2021年度為替レート使用） *3 各地域の人数は直接その地域の販売・戦略等に係る人員数で算出し、各地域に所属する間接部門等は除く。為替影響除き（2021年度為替レート使用）

スペシャリティ・カンパニーとして 眼科医療および患者さんへの貢献を徹底的に追求



事業生産性を向上させ

製品・市場ポテンシャルを最大限に引き出せる体制を確立

日本

市場での圧倒的な
プレゼンスを堅持し
継続的かつ安定的な
収益創出



長期的に増益基調を
保つための投資を強化



デジタルソリュー
ション等による
眼科医療への
更なる貢献と
市場拡大

中国
アジア
EMEA

収益最大化のために
高い営業生産性を目指す



日本で培ったコマーシャル
エクセレンスを展開

既存領域の新製品と新しい疾患領域を中心にグローバルで価値提供し、 強固な事業基盤を通じて多くの患者さんに貢献する

パイプライン

(開発中のものから一部抜粋。
2023年1月現在)

近視) STN10**13400***

FECD*¹) STN10**10904***

ドライアイ) STN10**14100***

RP*²) STN**6000100**

老視) STN10**13600***

MGD*³) STN10**10905***

緑内障) STN10**12600**

近視) STN10**12700**、STN10**12701**

眼瞼下垂) STN10**13800**

緑内障) STN10**13900**、STN10**14000**

*米州も視野に入れたパイプライン

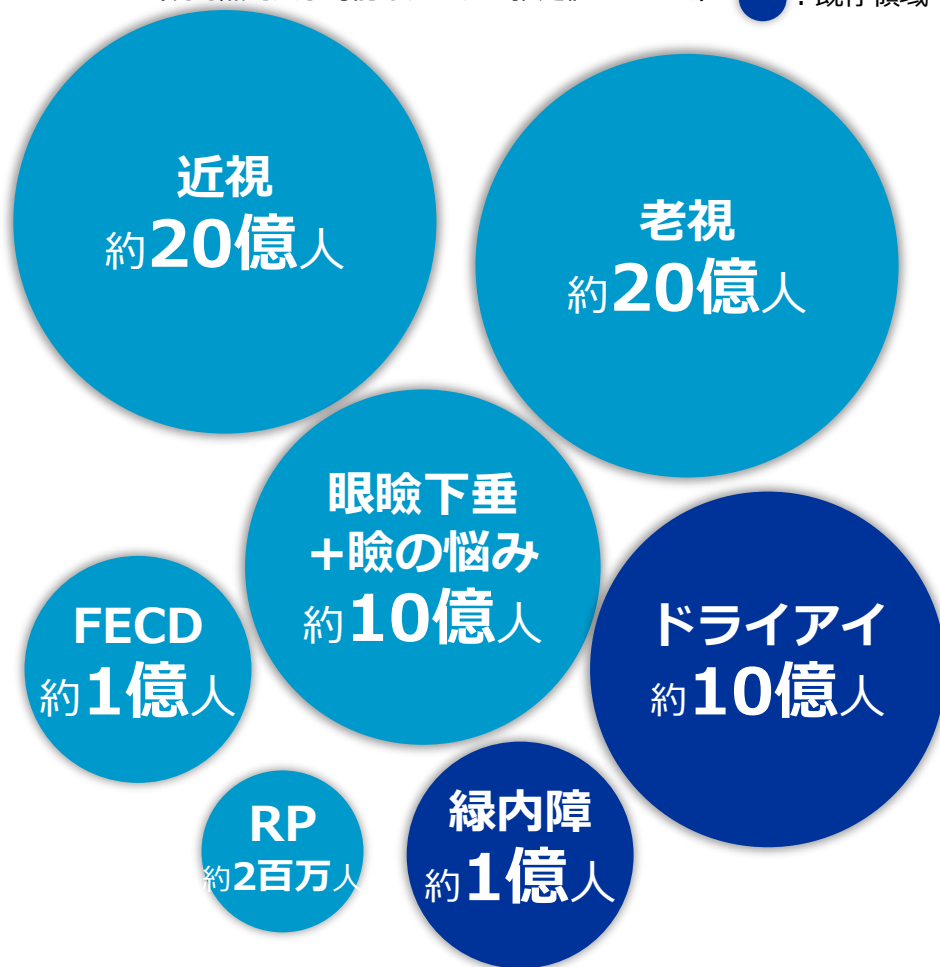
2030

全世界の患者数

(現時点で入手可能なデータと推定値に基づく)

● : 新領域

● : 既存領域



コア営業利益及びEPSの成長を目指す

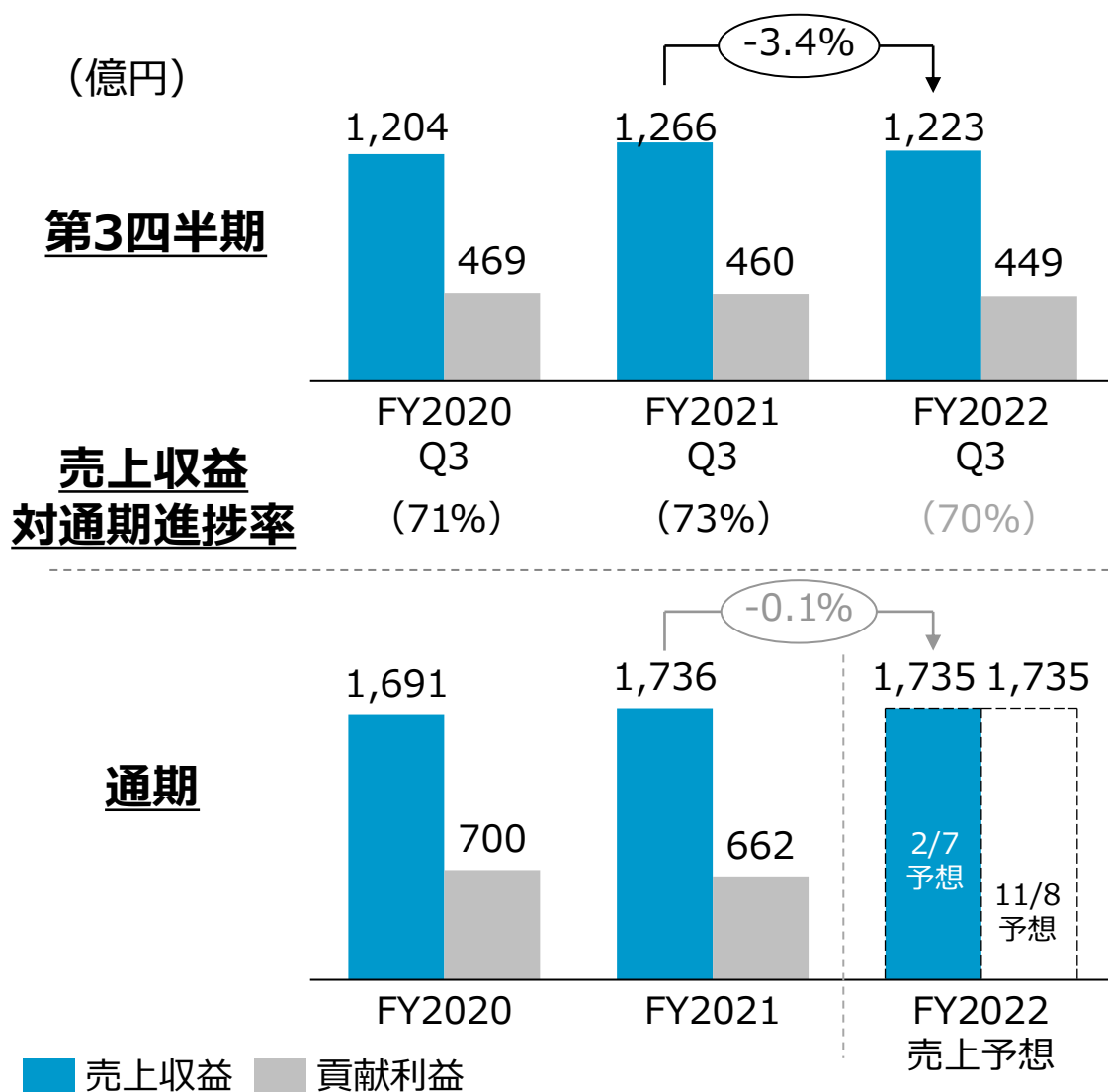
		FY2021	FY2022 (予想)	FY2025
コア営業利益 (率)	>	463億円 (17%)	410億円 (15%)	収益構造を改善し 20%を確保
EPS	>	68.07円	N/A	
ROE (IFRS)	>	8.4%	N/A	2桁水準への回復
株主還元	>	年間配当32円	年間配当 32円 自己株式取得 257億円 *1	安定配当 機動的な自社株買い

自己株式取得を資本水準調整の手段として位置付け、市場環境、投資機会等を総合的に勘案し判断

*1 2022年5月11日～2022年9月30日取得実績および2022年11月9日～2023年3月24日取得予定（上限）の総額

Appendix

薬価改定の影響を主力製品でカバーし、引き続き堅調に推移



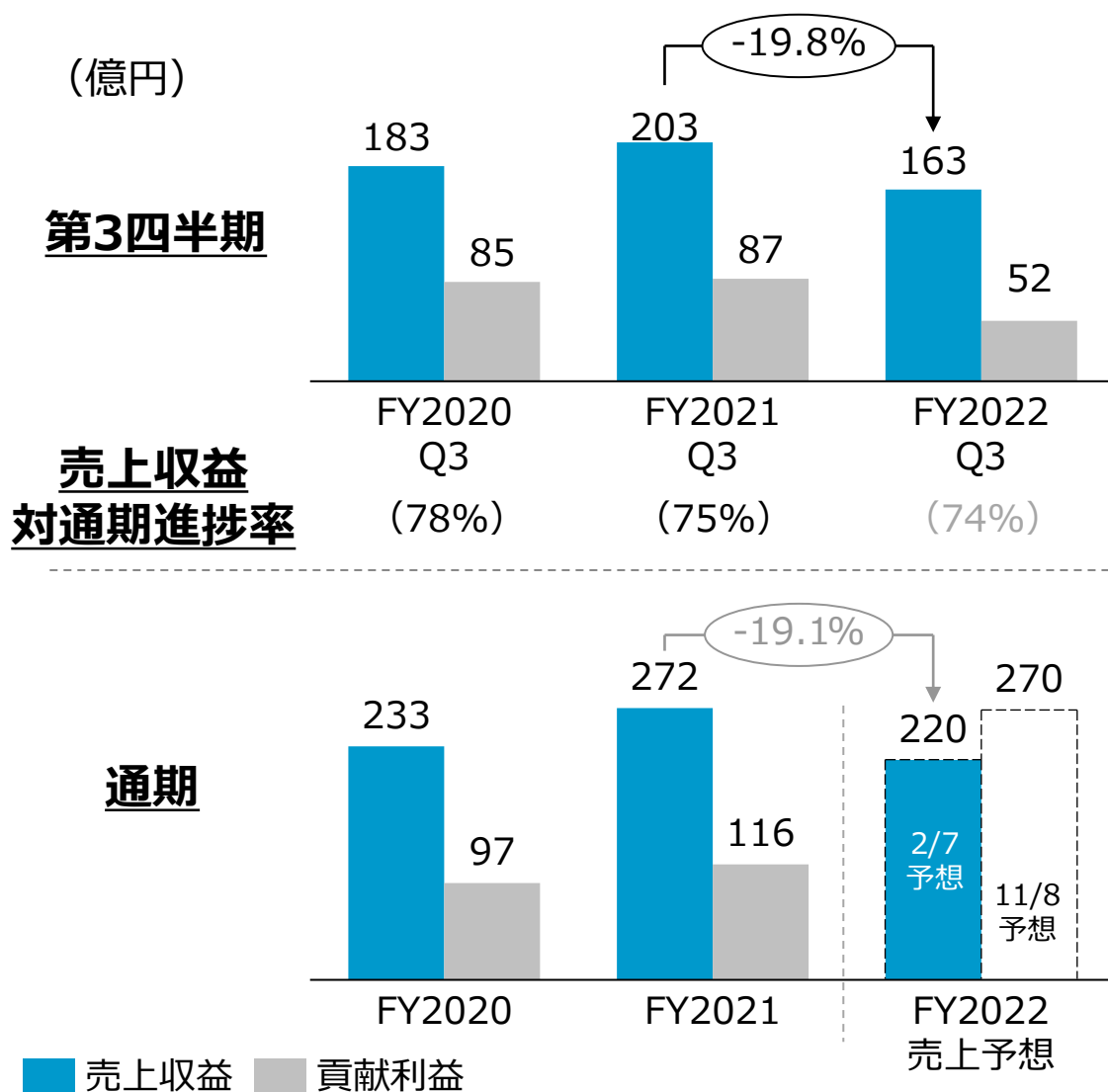
事業進捗

- 主力製品の成長で薬価引き下げ等の影響をカバー
対前年増減：
エイベリス +4.5億円
ジクアス類 +17.6億円（11月ジクアスLX上市）
アレジオン類 -23.5億円（YoY -16%/薬価-20%）
- 一般用医薬品：インバウンド需要回復には時間を要する

2022年度見通し

- 主力品目の競合環境：大きな変化なし
- アレジオン類：花粉の飛散量と飛散開始時期によるボラティリティは存在（例年通り）

COVID-19再拡大により市場が大きく縮小。来期は回復を見込む



事業進捗

- 回復基調にあったが、12月のCOVID-19再拡大により市場が縮小。Q3では病院チャネルでの需要が多い戦略製品（タプロス・ジクアス）への影響を特に大きく受ける。

- VerkaziaがNRDL*に収載

*国家医療保険償還医薬品リスト

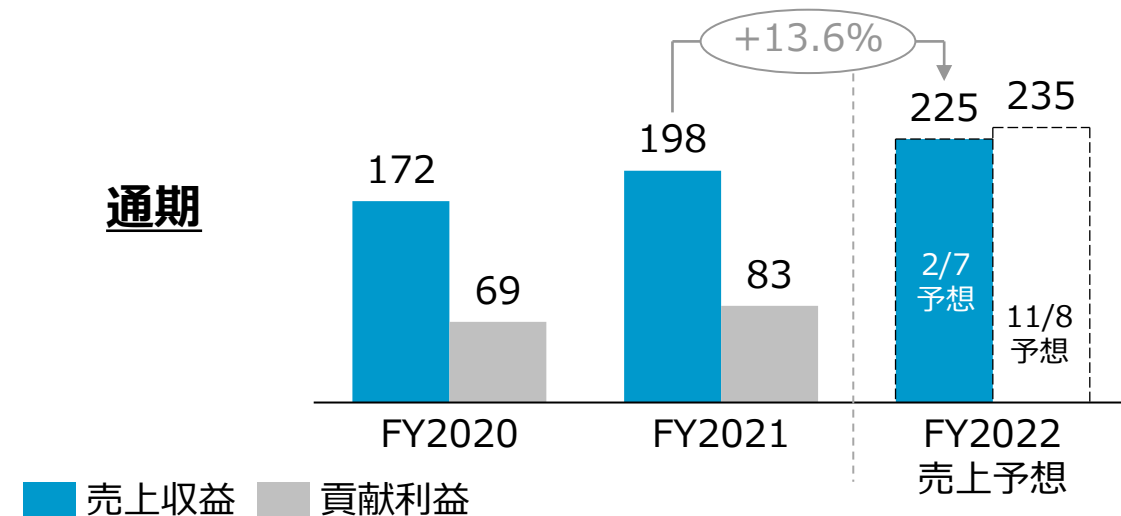
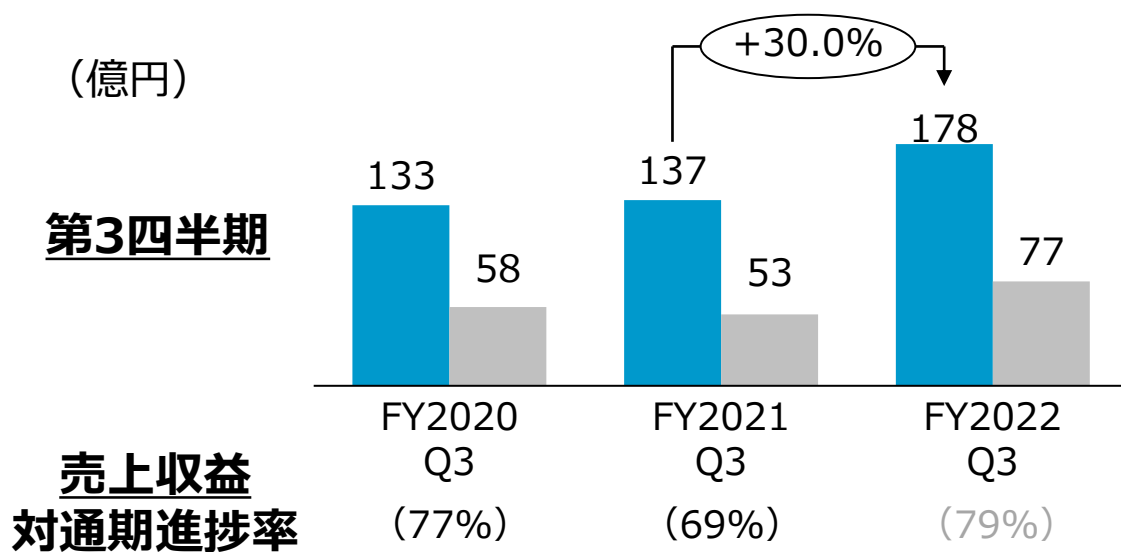
2022年度見通し

- 市場の完全回復は来期にずれ込むと見込み、2022年度地域別収益予想は下方修正

為替前提

	2021年度 第3四半期 実績	2022年度 第3四半期 実績	2021年度 実績	2022年度 予想 (2/7)	2022年度 予想 (11/8)
CNY(円)	17.28	19.86	17.55	20.00	20.00

主要国で緑内障・ドライアイを中心に堅調に推移



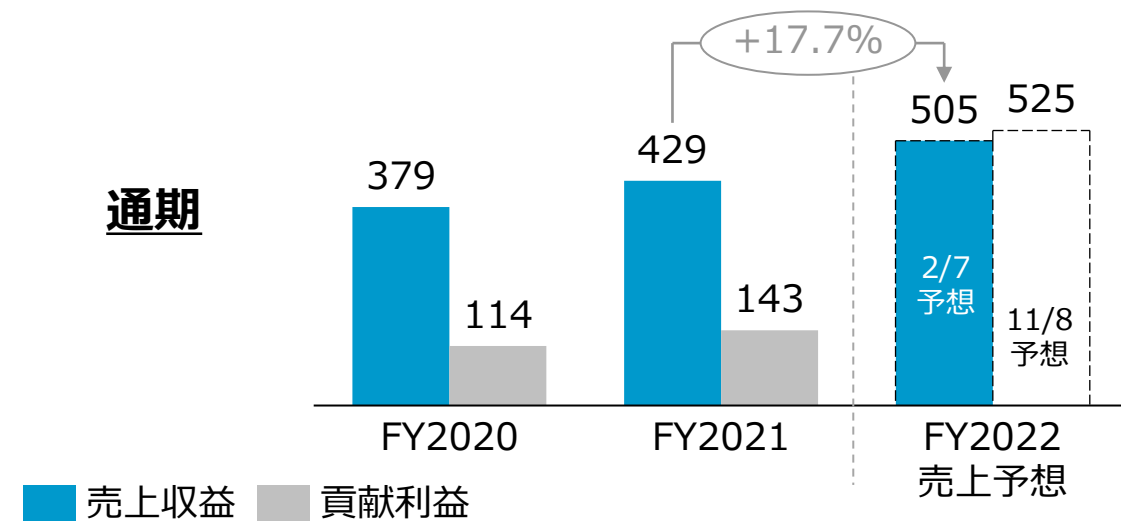
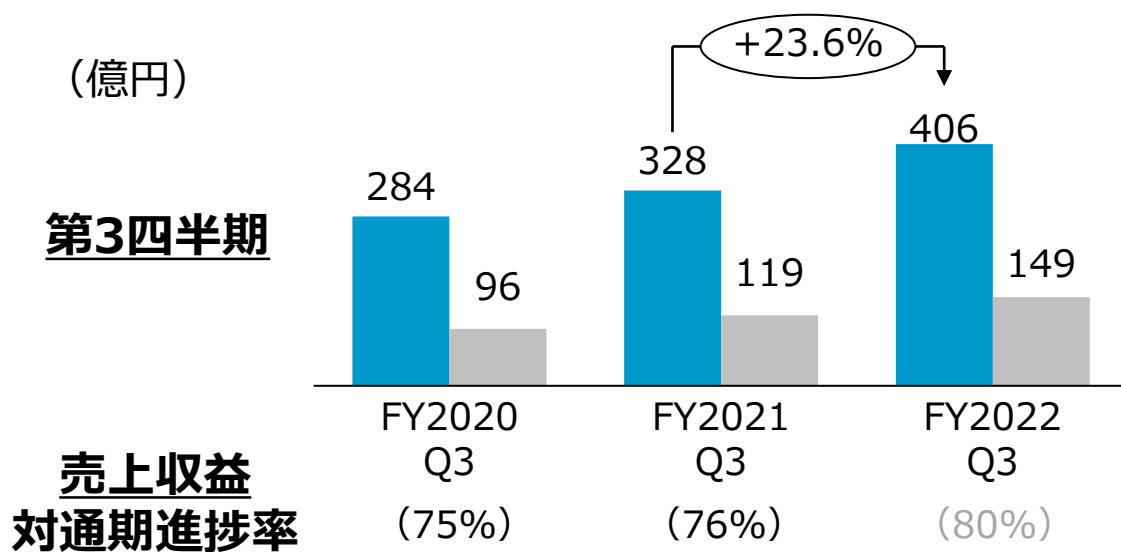
事業進捗

- 韓国：対前年+12.8億円（+16%）
緑内障やドライアイの主力製品を中心に成長
- その他主要国：2桁成長
（ベトナム +10.7億円、タイ+5.3億円、台湾+4.0億円、フィリピン+2.7億円）
*ベトナムは一部出荷時期のずれによる要因含む

2022年度見通し

- 成長基調に変更はないが、主要国におけるGEとの競合環境激化に伴う影響など、外部環境の変化に注視が必要
- 為替の動向を保守的に考慮し、地域別収益合計額見込みを修正

緑内障主力品目を中心に伸長し、期初想定より上振れで推移



事業進捗

- 西欧主要国を中心に成長（イタリア+12.2億円、ドイツ+8.8億円、イギリス+4.1億円等）
ロシア：為替要因もあり+17.1億円
- 緑内障：コソプト+18.9億円、タプコム+8.9億円、タプロス+8.3億円、プリザーフロ マイクロシャント+5.4億円等
- ドライアイ：Ikervis +4.4億円、Cationorm+5.1億円

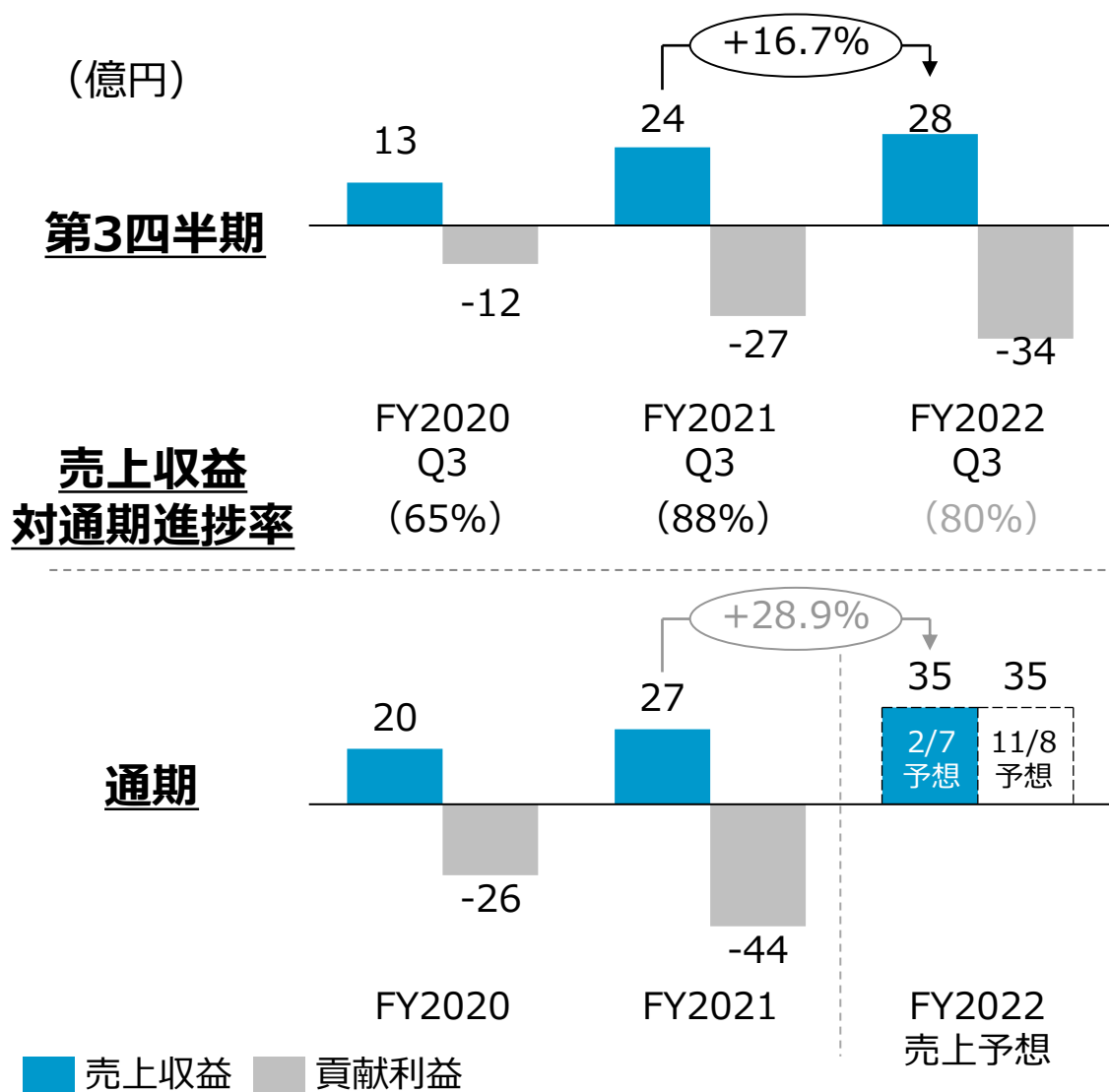
2022年度見通し

- タプロスLoE：現時点で大きな動きはない。緑内障や前眼部の主力製品を中心にトレンド維持。
- 為替の動向を保守的に考慮し、地域別収益合計額見込みを修正

為替前提

	2021年度 第3四半期 実績	2022年度 第3四半期 実績	2021年度 実績	2022年度 予想 (2/7)	2022年度 予想 (11/8)
EUR(円)	130.80	140.43	130.75	140.00	140.00

為替影響で前年同程度の売上水準維持も、患者貢献や収益化は課題



事業進捗

- Eyevance：供給問題は解消したが売上は回復せず

2022年度見通し

- 医薬品販売事業の合理化に向けた準備を進める

為替前提

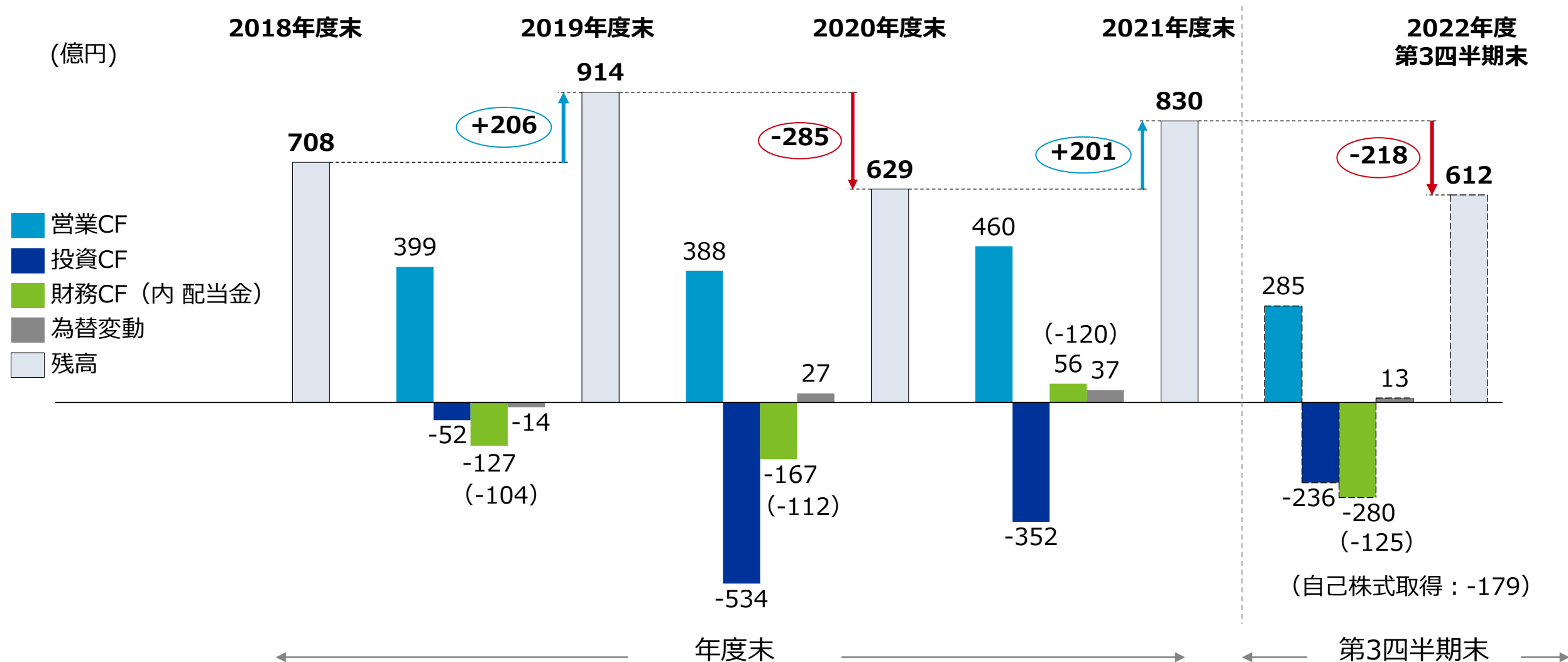
	2021年度 第3四半期 実績	2022年度 第3四半期 実績	2021年度 実績	2022年度 予想 (2/7)	2022年度 予想 (11/8)
USD(円)	111.24	136.22	112.57	140.00	140.00

(参考)

通期業績予想修正（第3四半期実績/第4四半期QTD予想）

(単位：億円)	2021年度		2022年度（2/7開示）						
	実績	対売上 収益比率	第3四半期 実績	対売上 収益比率	第4四半期 QTD予想	対売上 収益比率	通期予想	対売上 収益比率	対前期 増減率
売上収益	2,663	-	1,998	-	722	-	2,720	-	+2.2%
売上原価	1,097	41%	854	43%	256	35%	1,110	41%	+1.2%
売上総利益	1,566	59%	1,143	57%	467	65%	1,610	59%	+2.8%
販売費及び一般管理費	839	31%	655	33%	250	35%	905	33%	+7.9%
研究開発費	264	10%	217	11%	78	11%	295	11%	+11.8%
コア営業利益	463	17%	272	14%	138	19%	410	15%	-11.5%
ノンコア販管費	6	0%	-	-	75	10%	75	3%	-
製品に係る無形資産償却費	97	4%	72	4%	21	3%	93	3%	-4.1%
その他の収益	10	0%	5	0%	1	0%	7	0%	-37.7%
その他の費用	11	0%	306	15%	7	1%	313	12%	-
営業利益	359	13%	-101	-	36	5%	-65	-	-
金融収益	25	1%	10	0%	3	0%	13	0%	-48.9%
金融費用	12	0%	7	0%	3	0%	10	0%	-17.3%
持分法による投資損失	16	1%	17	1%	6	1%	23	1%	+43.4%
税引前当期利益	356	13%	-116	-	31	4%	-85	-	-
法人所得税費用	84	3%	45	2%	25	3%	70	3%	-16.9%
(税負担率)	23.7%	-	-	-	-	-	-	-	-
当期利益	272	10%	-161	-	6	1%	-155	-	-
ROE	8.4%						-		
コア当期利益	352	13%	212	11%	96	13%	308	11%	-12.5%

キャッシュ・フローの推移



外国為替レート前提と感応度

為替レート前提

(円)

	2021年度 第3四半期 実績	2022年度 第3四半期 実績	2022年度 第3四半期 予想 (11/8)	2022年度 第3四半期 予想比	2022年度 通期予想 (2/7)
USD	111.24	136.22	140.00	97.3%	140.00
EUR	130.80	140.43	140.00	100.3%	140.00
CNY	17.28	19.86	20.00	99.3%	20.00

為替感応度

2022年度修正業績予想(2/7)における予想レート比1%円安時の影響
(億円)

	合計*	USD	EUR	CNY
売上収益	+9	+0.4	+4.4	+2.2
コア営業利益	+0	-1.6	+0.5	+0.3
営業利益 (IFRS)	-1	-2.5	+0.4	+0.2

第3四半期実績為替影響 (対前期レート)
(億円)

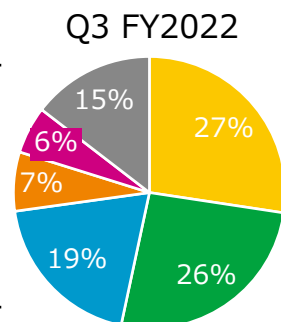
	合計
売上収益	+79
コア営業利益	-5
営業利益 (IFRS)	-66

*上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値 (小数点以下四捨五入)

2022年度第3四半期 仕向地域別売上収益

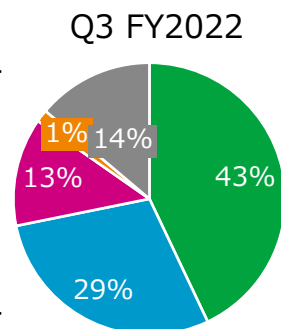
連結合計

YTD	Q3 FY2021 (参考)	Q3 FY2022
アイリーア*1 硝子体内注射液	559億円	547億円
コソプト配合点眼液	164億円	181億円
ジクアス点眼液 (LX含む)	142億円	157億円
その他	1,092億円	1,113億円
合計	1,958億円	1,998億円



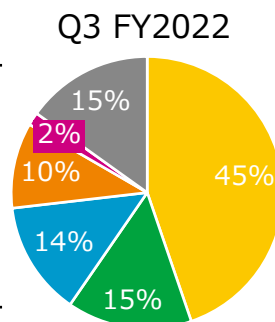
アジア

YTD	Q3 FY2021 (参考)	Q3 FY2022
コソプト配合点眼液	38億円	45億円
ヒアレイン点眼液	12億円	22億円
クラビット点眼液	12億円	18億円
その他	75億円	94億円
合計	137億円	178億円



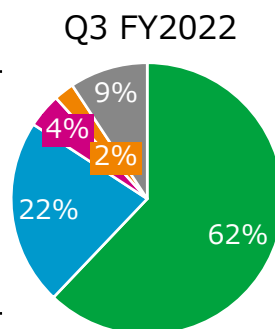
日本

YTD	Q3 FY2021 (参考)	Q3 FY2022
アイリーア*1 硝子体内注射液	559億円	547億円
ジクアス点眼液 (LX含む)	103億円	121億円
アレジオン*2点眼液 (LX含む)	144億円	120億円
その他	459億円	435億円
合計	1,266億円	1,223億円



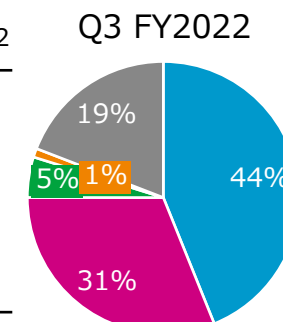
EMEA

YTD	Q3 FY2021 (参考)	Q3 FY2022
コソプト配合点眼液	80億円	99億円
タブロス点眼液	52億円	60億円
Ikervis	38億円	43億円
その他	158億円	204億円
合計	328億円	406億円

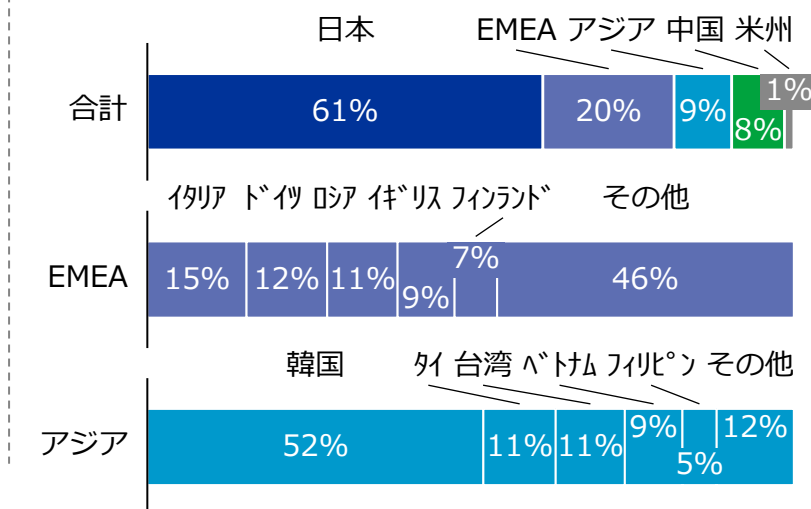


中国

YTD	Q3 FY2021 (参考)	Q3 FY2022
ヒアレイン点眼液	69億円	50億円
クラビット点眼液	56億円	43億円
ジクアス点眼液	26億円	22億円
その他	52億円	49億円
合計	203億円	163億円



主要国・地域別売上比率 (Q3 FY2022)



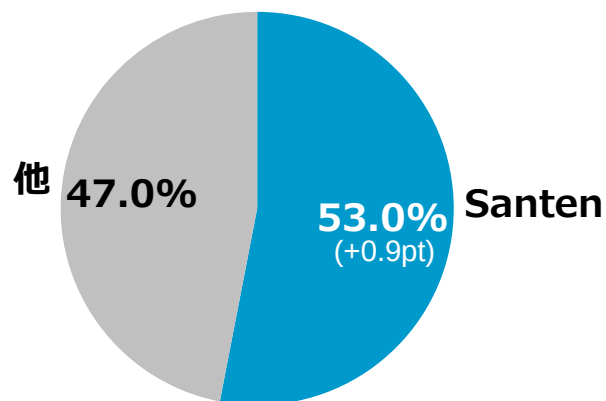
*1アイリーア：製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品

*2アレジオン：提携パートナーである日本ベーリンガーインゲルハイムの商標

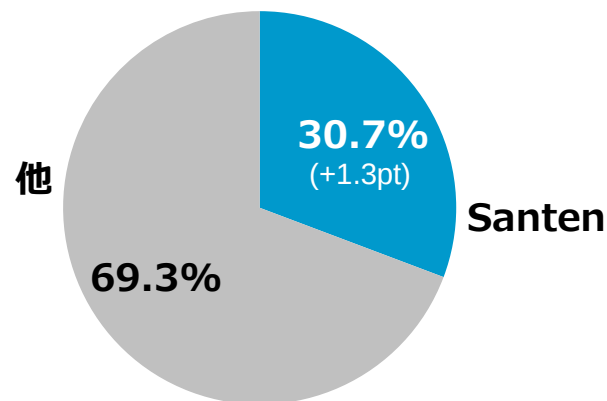
全ての領域において引き続きNo.1を維持

領域右記載数値：市場規模
グラフ：マーケットシェア（括弧内は対前年増減）

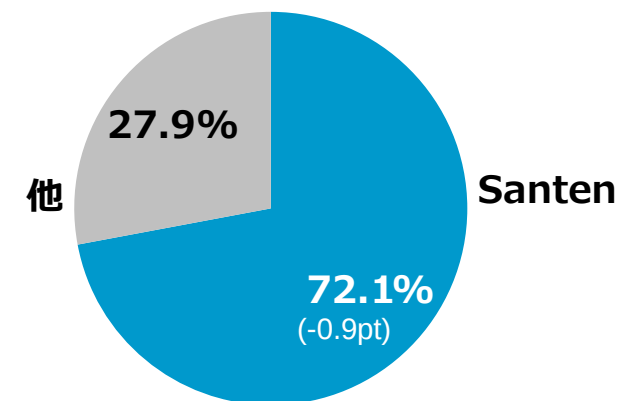
Total : 3,614億円



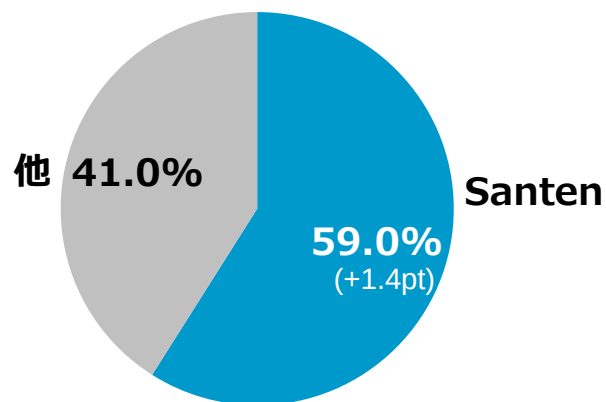
抗緑内障剤：947億円



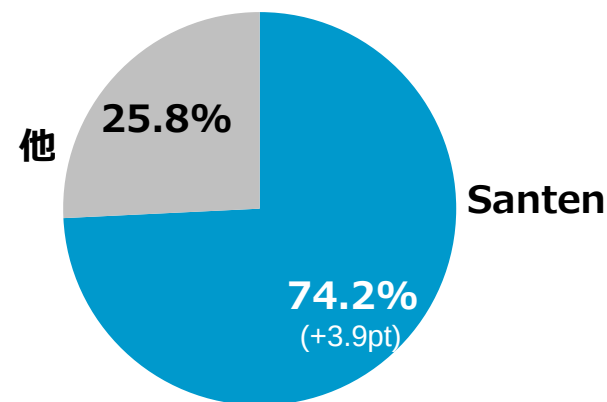
網膜疾患治療剤*：1,213億円



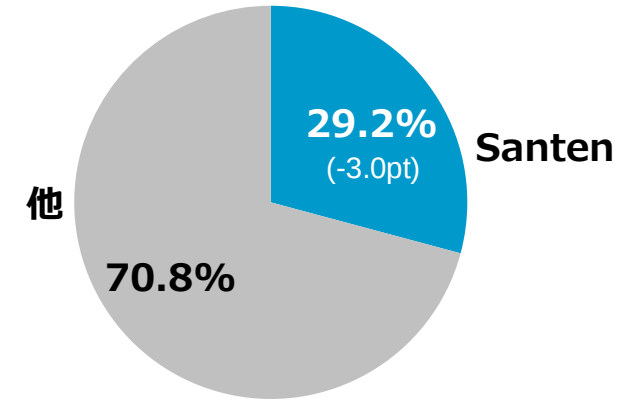
角膜疾患治療剤：428億円



抗アレルギー剤：468億円



抗菌点眼剤：69億円



*製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品（眼科用VEGF阻害剤「アイリニア」）を含む 出典：Copyright © 2023 IQVIA. JPM 2021.1-2022.12を基に参天分析 無断転載禁止

グローバル開発の状況①

(2023年1月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況 ^{*1}	
緑内障	オミデネパグ イソプロピル エイベリス / OMLONTI	WW ^{*2}	STN10 11700 DE-117	米国	現状：承認
				日本	現状：上市
				アジア	現状：上市
	Sepetaprost	WW	STN10 12600 DE-126	米国	現状：P2（主要評価項目達成）
				日本	現状：P3 計画：2023年度 P3終了
				欧州	現状：P2（探索的試験） 計画：2022年度 P2（探索的試験）終了
	緑内障用デバイス プリザーフロ マイクロシャント	WW （自社単独開発） ※米州、オーストラ リア、ニュージーラ ンドを除く	STN 2000100 DE-128	日本	現状：上市（ソフトローンチ）
				欧州	現状：上市
				アジア	現状：2022年10月 上市
	ネタルスジル メシル酸塩 Rhopressa®/Rhokiinsa®	日本、中国 アジア、欧州	STN10 13900 AR-13324	日本	現状：P3 計画：2024年度 P3終了
				欧州	現状：承認 計画：2022年度 上市
				アジア	現状：2023年1月 承認 計画：2023年度 上市

*1 試験プロトコルが社内承認されたもののみの記載。*2 World wide

グローバル開発の状況②

(2023年1月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	ネタルスジル メシル酸塩 / ラタノプロスト (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	日本、中国 アジア、欧州	STN10 14000 PG-324	欧州	現状：2023年1月 上市
				アジア	現状：2023年1月 承認 計画：2023年度 上市
近視	アトロピン硫酸塩	日本、中国 アジア	STN10 12700 DE-127	日本	現状：P2/3 計画：2023年度 P2/3終了
				中国	現状：P2/3 計画：2025年度 P2/3終了
				アジア	現状：P2（主要評価項目達成）
	AFDX0250BS	EMEA	STN10 12701 SYD-101	欧州	現状：P3（Sydnexis社実施） 計画：2024年度 P3終了
		WW	STN10 13400	日本	現状：P1（安全性・忍容性を確認） 計画：2023年度 P2a開始
				中国	計画：2023年度 P1試験開始
老視	ウルソデオキシ コール酸	WW (自社単独開発)	STN10 13600	米国	現状：2022年12月 P2a開始 計画：2023年度 P2a終了
				日本	現状：P1（安全性・忍容性を確認）

グローバル開発の状況③

(2023年1月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況	
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩	日本、中国 アジア、EMEA カナダ	STN10 13800 RVL-1201	日本	現状：P3 計画：2024年度 P3終了
				中国	計画：2023年度 P3開始
				アジア	計画：2022年度 申請
網膜色素変性症	jCell	日本、中国 アジア、欧州	STN 6000100	—	現状：P2安全性試験（米国、jCyte社実施、 2022年度終了予定）、P3試験計画策定中
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼科用クリーム)	日本	STN10 11402	日本	現状：P3（主要評価項目達成） 計画：2022年度 申請
春季カタル	シクロスポリン Verkazia	WW (自社単独開発)	STN10 07603 DE-076C	米国	現状：上市
				中国	現状：承認 計画：2023年度 上市
ドライアイ	ジクアホソル ナトリウム (持続製剤) ジクアスLX	日本、中国 アジア、欧州	STN10 08903 DE-089C	日本	現状：2022年11月 上市
				アジア	計画：2023年度 申請
	オロダテロール 塩酸塩	WW	STN10 14100	日本	現状：2023年1月 P1/2a開始 計画：2023年度 P1/2a終了

グローバル開発の状況④

(2023年1月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況	
フックス 角膜内皮 ジストロフィ	シロリムス (点眼剤)	—*1	STN10 10904 *1	米国 フランス インド	現状：P2a 計画：2024年度 P2a終了
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	WW (自社単独開発)	STN10 10905	日本	現状：P2a（主要/副次評価項目未達も、探索的評価 項目で有効性確認。詳細解析中）
緑内障	タフルプロスト・ チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タブコム、タブティコム	日本、中国 アジア、欧州	STN10 11101 DE-111A	中国	現状：P3 計画：2023年度 P3終了
	ラタノプロスト	WW (自社単独開発)	STN10 13001 DE-130A Catioprost	欧州	現状：申請 計画：2023年度 承認
				アジア	現状：P3（主要評価項目達成）

*1 当該プログラムはSantenが独占的实施権の行使オプションを保有。本プロジェクトコードは、第Ⅱ相臨床試験終了時にSantenが独占的实施権を獲得した後に附番予定のコードです。

